

明日をひらく人権のつどい 「心豊かに生きる」

こいけ ようにん
小池 陽人 さん (大本山須磨寺 寺務長)

2023年12月10日(日)

加古川市民会館 大ホール

参加人数 : 749人

(市推協 第4回全体研修会)



明日をひらく人権のつどいに参加して

平岡小学校区

金川 俊英 さん

「お坊さんの話を聞くには危険な(=聴衆が寝てしまう)時間帯です。」と始まった小池陽人さんのご講演は、内容の面白さと巧みな話術により、市民会館大ホールを埋めた聴衆に寝るすきを与えませんでした。

心豊かに生きるために、我々が気をつけるべき事柄について丁寧に説明を頂いたお陰で、深遠で難しい仏教の教えが分かったような気になったのは、私だけではないでしょう。

まず、「一切皆苦(いっさいいかいく)」というお釈迦様の教え。これは「人生は苦しみばかりである」ではなく、「我々が人生で出会う事柄は全て思い通りにならないことを知りなさい」という教えだそうです。思い通りにならないことが普通だと気づけば、思い通りになることの有難さがわかる。「今日も美味しくごはんを食べることができた。」というあたり前のことにも感謝でき幸せが感じられる。

次に、「知足(ちそく)」。我々は人と比べて「あの人はいいな、羨ましいな。」と思っているのでないか。しかし、大切なのは、日々の生活で自分が幸せであることに気づいていく力であり、幸せであると気付けば日常は輝いていくとの教え。

そして、感情本位でなく目的本位の生き方の大切さ。「嫌なことを言われた」と悩みや苦しみを思い詰めて辛さを増幅させるのではなく、何か行動することで辛い感情を薄めることができる。「今日は悪い一日だった。」と気

分が最悪であっても、「今日はちゃんと買い物できた、家事もできたので、悪くない一日だった。」という心がけが大切だということ。

加えて、お茶の先生の教えである「花弄(かろう)」。花見に集まった人々に喜んでもらおうと一所懸命に接待した人の衣に、気づかぬうちに花の香りがしみ込んでいた。これが、一時の華々しさでなく誠実な日々の積み重ねが思わぬ成果を生むという仏教の教えにつながっているとのこと。

このようなお話により、同じ人生であっても心の持ちようで心豊かに生きることができるとを学べたと思います。四国遍路での出会いやお寺で縁があった人々とのできごと、陽人さんが祖母から学ばれたことなど、ご自身の経験も心に残っています。

これまでの人権講話とは一味違うお話でしたが、今後もこのような講演会に積極的に参加し、自分を見つめ直す機会にしたいと感じた90分でした。



【わかりやすく話される小池陽人さん】

明日をひらく人権のつどい

参加者の方の感想

- 小池陽人さんの話を聞いて、本当に良かったと思いました。お話をしていた中学校での講演会、私の子どもが聞いており、「とってもいいお話で、最初から最後までしっかり聞けたよ!」と言っていました。私が今日聞いたこともご縁なのかなと思いました。日々の暮らしの中での気づきや役立つことをたくさん教えていただき、息がしやすくなった気がします。本日このような機会を作ってください、感謝します。(50歳代)

- 笑いあり涙あり。分かりやすく温かい言葉で、心がほっこりしました。いろいろ悩んでいることも多かったので、今日のお話を聞いて本当に良かったです。(40歳代)

- 今日、81歳の誕生日にこんなプレゼントをいただき、心より感謝いたしました。残る日々、「一切皆苦」を糧とし、心豊かに送れそうです。81歳、明日から新出発となりました。(80歳代)

- 小池陽人さんのお話を楽しみにしていました。私はいろいろな病気をかかえ、現在も心が苦しみでいっぱいなのですが、私の心を見透かしているかのようなお話でした。自分の価値を毎日考える日々ですが、今日のお話で心が救われました。私の考えは間違っていたんだと気づかされました。生きる意味、生かされる意味をしっかりと考えていきたいと思いました。本当に今日の講演を聞いて嬉しかったです。死から生へ切り換えます。(60歳代)



【市民会館大ホールの様子】



【体験を交えながら仏教の話をされる小池さん】

- 同じ状況にあっても考え次第でプラスにもマイナスにもなることがわかりました。生きてると本当に思い通りにならないことの方が多いです。自分の生き方・考え方がやがて自分に返ってくると思いません。人と人の関わりが薄くなっているこの時代ですが、どこかで人に支えられ、また人を支えて生きています。今後もたくさんの人と関わり、心の栄養いっぱいでも生活していきたいです。(50歳代)
- 人権・同和問題のエキスパートの講演もよいが、今回の内容は大変参考になった。お坊さんの話として非常に興味ももてた良い講演でした。(60歳代)
- 他者を大切にすることと同じくらい、自分のことも大切にしていけないといけないと思った。決めつける考え方を改め、物事の受け取り方を変えていきたいと思いました。とても心地よく話が聞けました。来て良かったです。(40歳代)
- 介護の仕事をしています。人と人の仕事なので、思い通りにいかないことが多く、私は無力なのではないかと思いつつ仕事をしていました。しかし、今日聞いたお話をもとに、自分の考え方をを変えたいと思いました。「生きていてだけで尊い」って言葉が、私の心を軽く、温かくしてくれました。長時間の講演なので「修行」とおっしゃっていましたが、苦痛になることもなく、自分に寄り添ってくれる話を聞いてありがたかったです。(40歳代)

わがまちの人権研修会



長島愛生園の見学

尾上小学校区 坂田 亨 さん

尾上町の3小学校区（尾上小、浜の宮小、若宮小）の人権啓発推進員で、初めて郊外での現地研修会を実施しました。

○日時：2023年11月19日（日）

午前9時～午後6時

○場所：長島愛生園（岡山県邑久町）

○参加：19名



【学芸員から説明を受ける参加者の皆さん】

長島愛生園は、国が作ったハンセン病患者の最初の療養施設です。昭和6年に施行された「らい予防法」により感染者たちは強制に近い形で療養所に収容され、隔離されました。病気が完治しても風評被害による厳しい差別と偏見に見舞われ、一般社会に戻る事ができませんでした。

入所者の皆さんは、現在ハンセン病そのものは完治していますが、後遺症により目が見えなかったり、手足の動きや感覚が鈍くなったりするなど何らかの障害があるようです。（入所者は多いときで2千名以上、現在約80名）入所者の平均年齢は88歳。「らい予防法」が廃止された平成8年以降も、頼れるはずの親兄弟と疎遠になっていたり、子供がいないなど一人での日常生活が難しいことから、多くの入所者が愛生園に留まっています。

私たちは、長島愛生園歴史館を訪問し、ハンセン病や入所者に関する資料や展示、ハンセン病を取り巻く問題について詳しく学びました。往路のバス内では事前学習を行い、現地では学芸員さんの説明を受けながら施設を

見学してまわりました。

参加者からは「学芸員の説明が分かりやすかった。」「いわれなき差別について改めて考え、正しい情報を知ることの大切さを実感する良い機会となった。」「十数年後、入所者がいなくなってもこれらの施設と歴史を後世に残すべく活動しているスタッフの姿に感銘を受けた。」との感想がありました。



志方町人権研修会

志方東小学校区 玉田 要 さん

昨年11月18日（土）に令和5年度志方町人権研修会が開かれました。当日は風が強く、時々雨が降るとても寒い日でしたが、約200名の参加があり盛況でした。

研修内容は、志方町内の3小学校、中学校から各1名計4名の人権作文発表と、部落解放同盟兵庫県連合会などの3名（北川さん、池本さん、東田さん）の水平社の歴史、狭山事件などの講演でした。

人権作文では、「自分らしくを大切に」をテーマに「男らしい姉」について語り、「性別は外観ではわからない」と続き、LGBTQ+に通じる意識の高さを感じさせる小学生の発表が印象に残りました。

講演では、差別解消への歴史を語りながら、同和地区であるなしではなく、部落差別のあるなしが問題となると説明されました。そして「寝た子を起こすな」論は「部落問題解決の壁」と結ばれました。



【人権作文発表の様子】



～市推協 理事研修会～

東神吉南小学校区 姫田 泰隆 さん

理事研修会は、11月9日（木）に行われました。市推員の最重要の任務である町内懇談会の開催についての話し合いがもたれました。

【討議内容】

- ① 町懇の実施方法や感想について
- ② 各小学校区別研修会について

コロナ禍の影響で過去3年間中止していた地域、規模を縮小する形で実施した地域、そしてこの3年間で担当者（町内会役員・市推員）が入れ替わってしまった多くの地域の悩みが情報交換されました。それを踏まえて、問題点の把握・活性化に向けての取組のあり方が活発に意見交換される有意義な機会となりました。

種々の困難を乗り越え、今年度はすべての地域で実施されることになっていますが、町内懇談会の持ち方は大きく分けて2種類です。啓発DVDを視聴し、分散討議・まとめをする場合と独自にテーマを設定し討議しまとめる場合になっているようです。人権アドバイザーの力を借りて行ったという報告がかなり見られました。



【理事研修会でのグループ討議の様子】

課題として多くあげられたのは参加者を増やす工夫の難しさです。また、当たり障りのない意見しか出ない場合どのように深めていくのか、テーマ設定の問題（昨年度に比べて今年度のLGBTQ+問題は難しかった）をどうするのか、内容の充実についての工夫も挙げられていました。

市推員個人ではなかなかできないことも多く、町内会との連携、市推員の情報交換の機会の確保をどの地域でも考えていく必要があります。そのためにも、ノウハウの引継の問題も含めて、月例・季例で研修会（意見交換会・連絡会）の機会をもっている地域の実践の様子をうかがい、今後の活性化を目指すことの大切さを感じました。

【 編集後記 】

新型コロナウイルス感染症の影響により、2020年度の活動は中止し、2021年度・2022年度は感染防止を配慮しながらの活動でしたが、2023年5月8日から「5類感染症」となり、ようやく平常の活動ができるようになってきました。

今年度、町内会・市推員の皆様には、町内懇談会の実施をお願いしておりました。数年のブランクがある中、引継がうまくいっておらず、何をしてもよいかわからなかった市推員の方もいらっしゃったと聞いておりましたので、どこまで回復できるのか不安もありました。しかし、そのような中で真摯に取り組んでいただいたからこそ、ほとんど全ての町内会で町懇を開催できたのだと感謝しております。本当にありがとうございました。

今年度の活動をもとにして、来年度は加古川市人権啓発推進員協議会発足51年目として、より一層充実した取組にしていきたいと思っております。ご理解・ご協力のほど、よろしく申し上げます。

加古川市人権啓発推進員協議会事務局